

令和5年度 第2回昭島市青少年問題協議会 議事録

日時：令和6年3月28日（木）午後7時

会場：市役所1階 市民ホール

出席委員：臼井会長・林委員・眞如委員・長野委員・信國委員・守屋委員・和田（幸）委員・
関口委員・廣光委員・吉本委員・指田委員・今藤委員・森島委員・高橋委員・
和田（千）委員・井上委員・田口委員・石川委員・
徳重委員（福島委員が欠席のため代理出席）・山下委員
欠席委員：美座委員・臼井（規）委員・石井委員・竹中委員・安部委員
事務局：滝瀬部長・薬袋課長・山口係長・吉岡主事

1 会長あいさつ

皆さんこんばんは。本協議会の会長であります、昭島市長の臼井伸介でございます。本日はお忙しい中、令和5年度第2回昭島市青少年問題協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

委員の皆様方には、日頃よりそれぞれのお立場から各分野におきまして、青少年の健全育成はもとより、市政各般にわたりご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

青少年をとりまく社会環境は、情報化社会の急速な進展や多様化・深刻化する少年非行、ひきこもりなど、複雑で多様な問題を抱える実態も明らかとなっており、発展途上にある青少年の人格形成に強く影響を及ぼしております。青少年の成長に悪影響を及ぼす有害環境から青少年を守るために必要な諸対策を家庭、学校、地域等と連携しつつ推進し、すべての青少年が健やかな成長を遂げ、次代の社会を担うことができるよう、取り組みを進めてまいります。

今年度におきましては、さまざまなご提言をいただきながら子どもたちのためになにができるかを考え、令和6年度の小中学校の学校給食費を無償化することといたしました。また、議会からも質問をいただいております子どもたちの医療費につきまして、今までは未就学児については無償としておりましたが、今回0歳から18歳までの医療費についても無償化とするよう進めさせていただきました。子どもは日本の宝であり昭島の宝であります。その子どもたちを大切にしながら、子どもたちがより良い環境の中で自分の考えをもって歩んでいってもらえるようがんばっていきたいと考えております。

さて、本市につきましては、昨年6月に公表された「住みよさランキング2023」において、全国812の市区の中で、総合評価が15位、快適度では2位を、「子育てしやすい自治体ランキング（東京圏）」では13位の高評価をいただきました。いずれも市民の皆様による「住んでみたい、住み続けたいまち昭島」のまちづくりへのご協力の賜物と深く感謝いたします。

また、本年5月1日に市制施行70周年を迎えます。昨年12月には、市民の皆様とともに平和について考えるプレ事業を開催しました。これまでの本市の歩みを改めて振り返り、先達のご尽力に感謝申し上げますとともに、70周年記念ロゴマークを活用したさまざまな記念事業を通じて、市民の皆様とともに誇りと愛着を持てるまちづくりを進めてまいります。

本日お集まりの委員の皆様におかれましては、引き続きまちづくりへ積極にご参画いただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。本日は、限られた時間ではございますが、有意義な情報交換の場となるようお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

【臼井会長】定足数の確認。委員の半数以上の出席を頂戴しているため、会議が成立していることを報告。

2 協議事項

① 令和6年度青少年健全育成基本方針及び重点活動項目について〈資料1〉

【薬袋課長】令和6年度青少年健全育成方針（案）について概略を説明。質問・異議なく報告を終わる。

3 報告事項

① 令和5年度昭島市青少年善行表彰及び昭島市青少年健全育成協力者感謝状贈呈について〈資料2〉

【指田委員】令和5年度昭島市青少年善行表彰及び昭島市青少年健全育成協力者感謝状贈呈について報告。意見・質問なく報告を終わる。

4 情報交換・その他

【徳重委員】

昭島警察署生活安全課課長代理の徳重です。本日は署長の福島が公務で欠席のため代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。本日は皆さまに少年の非行の現状についてお伝えしたいと思います。まず、東京都内の刑法犯の少年の検挙人員が昨年と比較し増加しております。また、昭島市内においても微増しております。罪種でいうと、傷害や窃盗が多く、傷害においては内輪もめや喧嘩、窃盗においては万引きが増加しております。ほかにも、大麻をはじめとする薬物事犯や特殊詐欺の事犯が増えております。また、視点を変えて少年の被害の状況を見ると、SNSを利用した児童ポルノなどの福祉犯罪に巻き込まれているケースが増加しております。このように、少年をとりまく環境は改善しているとは言い難く、厳しい状況であると言えます。このような情勢をふまえて、特に憂慮すべき点として、闇バイトが挙げられます。皆様には、闇バイトに少年たちが自ら応募して特殊詐欺や組織的な強盗や窃盗に手を染めてしまい、抜け出せずに犯罪を繰り返してしまう現状があるということを覚えておいていただきたいと思います。現在当署の取り組みとして、薬物事件の担当者と少年係員が小中学校、高校に赴き、福祉犯罪やSNSについて教室をひらき、少年が加害者にも被害者にもならないように対策を講じております。今後もあらゆる対策を講じながら、少年の各種犯罪の撲滅に努めていきますので、引き続き、警察活動にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

【白井会長】

どうもありがとうございました。みなさんのほうから何かご質問等ございますか。

【山下委員】

特殊詐欺や闇バイトに加担する少年の年齢が下がってきていると聞いたことがあります、実際はどうなのでしょう。

【徳重委員】

本部より具体的な統計がきていないためはっきりとは言えないのですが、そういう傾向にあると言えると思います。近年の若い人はスマホを持っている人が多く、加害者や被害者になりやすい現状にあると言えます。そういった現状をふまえると、年齢低下はこれからより顕著になってくるのではないかと思います。

【白井会長】

どうもありがとうございました。次に学識経験者の石川委員から何かございますか。

【石川委員】

私は大学で教鞭をとっているのですが、長く続いたコロナ禍を経て、私の大学では4月より一部の講義を除いてすべての講義が対面で行われます。本日ちょうど在校生のガイダンスを行ったのですが、気になったのは友だちがおらず一人で座っている学生です。ここ数年コロナ禍においてサークル活動が中止になったり、対面で接する機会が少なかったりと、人間関係の構築が難しいとみんな感じていると思います。大学生は見た目は大人に見えますが、まだ不安定であり、心配なこともたくさん抱えていると感じます。また、インスタグラムなど、SNSを利用する人もとても多く、コミュニケーションのツールが変わってきており、そういった状況では誘惑もとても多いと思います。大学の指導者として、今後も正しい SNS の使い方を指導していきたいと考えております。

【白井会長】

どうもありがとうございました。次に学識経験者の田口委員から何かございますか。

【田口委員】

本日は、市内固定学級の生徒の進路についてお伝えいたします。まず知的固定学級の中学三年生は21名です。そのうち、知的障害特別支援学校の就業技術科に5名、職能開発科に2名、あきる野学園の普通科に7名進学することが決まっています。また、全日制の都立高校に2名、通信制の私立高校に1名、私立通信制、私立サポート校に4名進学することが決まっており、全員進路が決まっています。続いて情緒固定学級の中学三年生は8名です。そのうち、全日制の都立高校

に2名、定時制の都立高校に1名、私立高校に1名、高等専修学校に1名、私立通信制、サポート校に3名進学することが決まっており、こちらも全員進路が決まっています。続いて、市内在住の特別支援学校高等部3年生の進路についてお伝えいたします。まず、就業技術科ですが、青梅にある青峰学園の卒業生60名のうち7名が昭島市民で、そのうち6名が企業就労、1名が就労移行でもう少しトレーニングを積んでから企業就労することとなっています。また、南大沢学園の卒業生100名のうち2名が昭島市民で、2名とも企業就労することとなっています。続いて職能開発科は東久留米市に特別支援学校がありますが、今年度の卒業生には昭島市在住の生徒はおらず、来年度3名が卒業する予定となっています。最後に、普通科のあきる野学園ですが、卒業生34名中15名と約半数近くが昭島市民です。そのうち、企業就労が2名、未定が2名ですが、未定の2名も企業に就労する予定があるそうです。また、B型作業所に5名、自立訓練（生活訓練）に2名、生活介護に4名と、三分の一程度が就労しています。こういった生徒たちは企業就労する際には愛の手帳あるいは精神障害者保健福祉手帳のどちらかを取得し障害者枠で入っています。その障害者枠ですが、法定雇用率というものが決まっており、民間企業では2.3%だったものが、2024年4月に2.5%、2026年7月には2.7%に引き上げられることとなっております。こういった形で、特別支援学校に行ったからといって社会に貢献できないということではなく、とてもマイペースに仕事をこなしている子どもたちがたくさんいるということをここでお知らせしたいと思います。

【白井会長】

どうもありがとうございました。最後に長野委員から何かございますか。

【長野委員】

最近、教職をとっている学生には私立高校で働きたがる学生がとても多くいます。公立は大変だ、私立の方が給料が高い、面倒な要求をされないといった勘違いをしている学生がとても多く感じます。しかし、私立で働いている知り合いに聞くと、むしろ私立でお金を払っている分要求が多かったり、保護者対応が大変だったりするようです。昨今、公立学校の教員採用試験の受験者は減っており、それは大問題だと感じております。これからは、公立学校の良さ、地域との関わり大切さを若い人たちに伝えていきたいと思います。

【白井会長】

どうもありがとうございました。それでは、情報交換が終わりましたので、これで終了させていただいてよろしいでしょうか。それでは最後に閉会の言葉を、林副会長よりお願いしたいと思います。

【林副会長】

皆様、令和5年度最後の委員会になると思いますが、本日もありがとうございました。私自身は、ユニセフの幸福度調査で日本の精神的幸福度が38か国中37位という報道がとても気になって

おりました。そんな中で、昨年国がこども基本法を制定し、12月にはこども施策を総合的に進めるためのこども大綱も閣議決定され、こどもまんなか社会に向けてついに皆様と力を合わせて進む時が来たと考えています。一方で、子どもを支える現場は疲弊して大変であり、また、子どもを取り巻く環境も過酷になっています。市としても様々な取り組みをするところではありますが、いずれにしても地域の力が不可欠な時代であると思っていますので、引き続き皆様にはそれぞれのお立場から昭島の子どもたちをいっそう支えていただきたいと思います。本日はお足元が悪い中どうもありがとうございました。

閉会